

マスクごしのえがお

《小学生の部 金賞》

高須小学校二年 河野 絆

コロナでマスクがひつようなので、おばあちゃんがおなじがらのものを二つつくってくれました。

そこでわたしは、しんゆうのたんじょう日がちかいので一つあげることにしました。ほんとうはちよくせつ会ってわたしはかっただけで、じしゆく中だったので、お手がみをかいてじたくのポストにとどけにいきました。うけとつたしんゆうからさっそくつけてくれたしやさんが、わたしのほかあさんのメールにおくられてきました。

とうこう日にわたしたちは、おそろいのマスクをたまたまつけていて、マスクごしにっこりほほえみあいました。

まい日会えていたしんゆうに、こんなにも長いあいだ会うことができなかつたけど、おなじがらのマスクを二つ見たしゆんかんすぐにしんゆうのかおがうかんできました。

わたしにとって大せつなそんざいだということにあらためて気づきました。おもしろくて、なんでもうたにしちやう、まんてんえがおのしんゆうが大すきです。

言葉で伝えることの大切さ

《小学生の部 銀賞》

向洋新町小学校五年 津田 聖花

私は、あの時、ポストに手紙を入れるか、インターフォンを押せば良かったと後かいしています。

四年生の終わりに、仲良しの友だちが学校を休みました。先生から腹痛だと聞きました。代表であいさつをする予定だった二分の一人式の日も彼女は来ませんでした。その後も何日か休みました。明日は来るかなと毎日思っていたけど、そのままりん時休校になってしまいました。お母さんに、

「心配だから、手紙をポストに入れるか、インターフォンを押してみたらどう？」
と言われたけど、結局、勇気がなくてできませんでした。

車で外出したある日、道を歩いている彼女を見かけました。一しゅん、以前よりやせたように見えました。久しぶりの登校日、元気になって学校に来ていました。まるで何もなかったかのように一緒に遊びました。

私は、心配している気持ちを伝えられなかったことに後かいしました。言葉で伝えることは大切です。友だちが心細い時には「大丈夫？」と声をかけられる人になりたいです。

私の心の花

《小学生の部 銅賞》

千田小学校六年 越智 清香

「大丈夫？」

そう尋ね、自分を心配してくれる人。そんな人が周りに多くいたおかげで、今の私はできています。幼いころからみんなと少し考え方が違う。そのせいで話がかみ合わなくなる。そんな自分を、私はずっと嫌っていました。

「それでいいよ。」「それも個性だよ。」

ある日そう言って救ってくれた友達。今まで誰も気付いてくれなかった心のつぼみに、光が当たった瞬間でした。その後もその友達と一緒に話すことで、心がどんどん軽くなっていきましました。今、心の花は満開です。いろいろな人と楽しく話すこともできるようになったし、多少いやなことがあっても我慢できるようなりましりました。でも新型コロナウイルスが流行してしまったせいで、なかなか話せない日々が続いてしまい、心の花は少ししおれてしまいました。私はまだ、救ってくれた友達と話さないと、自分をずっと保っていることができません。けどいつか、心の花を元気にして、その友達へ恩返しをしたいです。また、そんな人になれるよう頑張ります。

なんでけんかに、なるんだらう

《小学生の部 銅賞》

向洋新町小学校三年 本家 椿子

だれがえらいの、だれが正しいの、だれがまちがっているの。同じ人間なのに、こわがられたりきらわれたりでも同じ人間なのに何がちがうんだらう。

けんかはいつもとつぜんはじまりイライラやかなしい気もちになります。けんかがはじまると一人だけつものあつかいをされている気分になります。みんなにわたしは、こんなことも楽しいのではとただたえたえたいです。でもその気もちがつかいといやな思いをさせているのかもしれない。人の気もちはともむずかしいです。何が正しいのかなにがまちがつているのか、学校のべん強よりむずかしいです。

でもうれしいこともあります。それはけんかをした事で話し合い前よりなかなくなれます。そして、まほうの言葉が二つあります。

「ごめんなさい、ありがとう。」この言葉でえ顔になります。

この言葉をせかいのみんなが使えば多くの人がしあわせになると思います。

泣いてくれて

《小学生の部 入選》

草津小学校六年 大町 心奈

六年生になるまでで、何回ケンカしたのかな。六年生になるまでで、何回私があなたにきつく当たってしまったかな。コロナウイルスでの休校中に、この問題について考えてみたんだ。そしたら、少なくとも五回以上はあったよ。一番多かったのは二年生のときかな。一番よくいっしょにいたときだね。例えば、いっしょに行つてたとき、あなたは「もつと早く家を出たい。」といったけど、私は「そんなに早く出てもやることはない。」といったとき。そのときが一番大きいケンカだったかな。結局朝休けいが終わるまでケンカしたね。私は自分から謝るのが大キライだから、ずっと謝らなかった。だけど今謝るね。ごめん。そして大休けいやつと仲直りしたとき、あなたは、「もう友達やめるようになるかと思つた。」といつて、泣いてくれたね。私、言葉には出せなかつたけど、すごくうれしかった。私のこと大切に思つてくれるんだなつて思つて、すごくうれしかった。私も泣きそうだった。これからも、ずっとあなたと友達でいたいなあつて、心から思つたよ。

二重とび

《小学生の部 入選》

八幡東小学校六年 佐々木 彩乃

私が二重とびができなかつたときに教えてくれた友達がいます。私はぜんぜんとぶことができないのに

「おいしいね。あともうちよつと。」

とはげましてくれました。私はその言葉がともうれしかったです。ほかにも友達は、「もつと足を上げて。えびぞりに、なつてるよ。足をこうして手はこうして。」

などいろいろアドバイスをしてくれてそのアドバイス通りに家で練習しました。初めは、足にひっかかって一回もとべていなかつたけれど、毎日家で練習をしているととべました。私はとてもうれしくて二回以上四回以上と目標をたてていきました。すると私は、十回とべるようになりました。私は、こんなにとべるようになったよと友達に教えてあげたくありません。私は友達と遊んだとときに見せました。友達は、

「やった、できたんだ。すごいとべてるね。」

ととても喜んでくれました。私はとてもうれしくて今でもその言葉がわすれられません。

人に親切に出来る優しさ

《小学生の部 入選》

宇品小学校四年 末田 あんり

四年生になってまだクラスになじめていない時に、人のために色々な親切なことをしてくれていた人がたくさんいました。例えば、給食時間に配った食べ物が台に落ちていたり、牛乳が床にこぼれてしまっていたら、自分がこぼしたわけでもないのにまよわずにきれいにふき取ってくれたり、そうじの時間、バケツがたおれて水びたしになった時、一人だけではなくみんながすぐに集まって協力してふいたので、優しくてすてきだと思いました。

同じクラスになったけど一人一人の性格は分かっています。それでもお友達じゃない人でもその人のために何かをしてあげることが当然になっているので良いクラスだなと思います。

私が新たな学校生活で一番思ったことは、人に親切にするのはもちろんだけど人が見えない所でも気づいてせっつきよく的に行動出来るのが本当の優しさだと言うことです。今年は、コロナのえいきょうで人と共有する期間が短かいのでき重な時間を大事にしたいです。

あいたかったよ、みんな！

《小学生の部 入選》

瀬野小学校二年 田村 稀唯

こんかい、しんがたコロナウイルスで学校が、とつぜん休校になってしまいました。

本とうのことを言うと、わたしは、すこしうれしかったです。なぜならそのあいだ、おばあちゃんのうちにとまることができずからです。でも、だんだんに二年一くみのみんなにあえなくて、さびしくなってきました。「みんなコロナにかかってないかな？」「みんなのかぞくもだいじょうぶかな？」「ひょうどう先生もげん気かな？」「中にわのきゅうくんは、どうなったかな？」と、いろいろしんぱいになってきました。

そしたら六月一日から学校が、はじまりました。ひさしぶりに友だちや先生にあえて、ホツとしました。コロナのまえの学校とおなじです。ともだちと、はなしたり、わらったり、とてもうれしかったです。

わたしは、コロナたいさくをがんばっています。こんなながい休みがあると、友だちとあえないので、もうこんなことになってほしくない、ここから思っています。

あたらしいおともだち

《小学生の部 入選》

向洋新町小学校一年 竹原 真咲

わたしは、しょうがつころにゆうがくしてできた、あたらしいおともだちとあそびたいです。

ひとりおともだちができたので、まだたくさんふやしたいとおもいます。

たくさんおともだちがふえたら、かくれんぼと、おにごっこと、ふえおにがしたいです。ともだちになりたいこがいたら、こえをかけて、あそびにさそいたいとおもいます。

こまっていたこがいたら、こえをかけてあげて、たすけてあげたいとおもいます。

友達になつてくれてありがとう

《小学生の部 入選》

原南小学校四年 向井 菜々

私には、とてもやさしいお友達がいいます。そこで私は、友達に「友達になつてくれてありがとう。」と伝えたいです。

わたしがこの学校にひっこしてきたとき、最初はすぐくどきどきしたけど分らないところを教えてくれたり、話してくれたりしたのできんちようがほぐれました。そしてこの学校になれてきてクラスみんなもやさしく、いっぱい友達ができました。

「学校はもうなれた？」と言つてくれたり、

「だいじようぶ？」などと言つてくれてとてもやさしい人たちがいる学校だと思いました。
(友達は、とてもいいな。)

と心の中で思いました。すてきな学校でよかつたと思います。友達になつてくれてありがとう。

これからこの学校でもつとお友達を作つて楽しく学校生活をおくれるようにしたいです。今は、とても大変なときだけどがんばつて乗りこえようと思います。

なかよしの友達に伝えたいこと

《小学生の部 入選》

伴南小学校四年 鴨山 実空

わたしは、今とてもなかよしいな友達があります。クラスはちがうけど、会った時には、遊ぶやくそくをします。さいしよの出会いは、一年生で同じクラスだった事です。一年生の時は、毎日遊んでいました。でも、よくケンカをしていました。その子は、一年の時は、がんで負けずぎらいでした。わたしも、負けずぎらいでくじける子でした。だからケンカが多かったのかなと思います。

四年生になってまた遊ぶようになると、一年生の時とくらべて、ケンカが少なくなりました。どうしてかなと考えてみると、その子は、あやまるようになったと思います。わたしは友達の話聞けるようになりました。だから、二人のやりたい事がちがう時には、その子のいけんを聞いて、その遊びをやってみます。そうする事で、今では、一年生の時よりも楽しく遊べるようになりました。

今から高学年になって、中学生になって同じクラスになるかわからないけどいつまでもなかよしの友達でいてね。

友達といっしょに

《小学生の部 入選》

石内北小学校四年 北野 愛翔

今、世界中の人たちが、コロナというおそろしい病気のせいで苦しめられています。そのため、ぼくたちも長期間学校が休みになり、最初はうれしいという気持ちがありました。が、あまり長くなると、今度は「あーつまらない」という思いがいつぱいになってきました。勉強はどうしたらいいのだろう、友達と会うことができないのはつらすぎると、毎日がいやになってきました。

でも、自分だけがつらい気持ちだと思うのではなく、友達もみんな大変なのだからと少し考えてみました。なにか目標を一つもってやってみようと思いました。親友もぼくも本が好きです。毎日必ず読書をすることにしました。おもしろかった本は、学校が始まったら親友に教えてあげようと思いつきながら読んでみると、なんだか毎日が楽しくなってきました。

休校中でも、毎日頭にうかんでくる友達。学校が再開して会えたときは、心がふわっとして笑顔になりました。これからいっしょにいろんなことを楽しみたいです。

友達

《小学生の部 入選》

亀崎小学校四年 大江 星七

わたしは、今友達にほんとうにありがとうと伝えたいです。

わたしは、もともとすぐくひとみしりでした。1年ぐらいの時もひとみしりであんまり友達としゃべらないタイプでした。でも、2年生ぐらいから、よく友達と、しゃべったりあそんだりするようになりました。なぜかというと、みんなよくはなしかけてくれたからです。そしたら、わたしもしゃべりやすくなつたからです。それから、3・4年生も、友達となかよくできました。それがきっかけで、ひとみしりも、だいぶなくなりました。そして、わたしは、もともと、学校が大きらいだったけど、友達のおかげで学校がまい日まい日、楽しみになりました。朝は、ねむくて、学校なんか行きたくないと、思う日も、ありました。でも、じっさい行つてみたら、すぐ楽しいです。ほんとにみんなやさしいです。

ほんとにみんなが友達でよかつたなと思えました。みんなはいつもやさしくしてくれます。わたしは友達って大切だと思いました。

友達に伝えたいこと・言いたいこと

《小学生の部 入選》

宇品小学校五年 児童

ぼくには、いっしょにサッカーをがんばっている友達がいる。そのクラブの友達とクラスはいっしょではないので、木曜日の学校が終わって仲間であつまって、話をしたり、練習や試合をいっしょにしてがんばっている。

その友達に負けたくないことがある。

その友達は、ぼくと同じくらいのレベルでプレーできるので、すこしでもその友達よりうまくなろうとぼくはひそかに土曜日、日曜日をりようして練習している。

自分の家の近くの公園で、リフティングやドリブルを練習している。その結果、少しずつではあるが、うまくなってきたように思っている。

その友達に伝えたいことは、ぼくがドリブルして得点をとるのでしっかりと自分のチームのゴールをしっかりと守ってほしいと言いたい。もしも点をとられることがあれば絶対に点をとってやると、自分はそう思っている。

これからも、いっしょにサッカーが上手になっていきたいです。

「ありがとう」の気持ち

《小学生の部 入選》

宇品小学校五年 小野 愛華

休校が続いて、先生や友達に会えなかった間に思ったことがあります。それは、今まで学校で当たり前にできていたじゅ業や、友達に会える大切さに気づいたことです。

休校中は、家で自分の考えについてしか学習できなかったけど、学校ではいろんな友達の考えが聞けるのでおもしろいし、教え合えるのでいいなということに気づきました。

学校では、友達が笑っていると自分も楽しくなるし、友達ががんばっていると、自分もがんばろうと思えます。友達が、

「いっしょに遊ぼう。」

ときそつてくれるのがとてもうれしいです。友達がこまっていると声をかけたり、相談にのって解決すると、表情が明るくなったり、気持ちが悪くなるのでいいなと思います。ふだん言っている「ありがとう。」も、言葉だけではなく、いろんな思いが詰まっていることを考えようと思いました。

休校中は、友達に会えなかったけど、友達の大切さにたくさん気づけたので、学校では、みんなとの時間を大事にしたいと思いました。

表しよう台に立つ

《小学生の部 入選》

五日市小学校五年 永岡 日和

わたしには、二さいから知っている年一回しか会えない友達があります。会える条件は、一つしかありません。それは習字で、「表しよう台に立つ」ことです。同じ部門だったら、二人は会えないし、人にぬかされてしまえば会えないのです。

その子と私が出会った時は、毎日あそんでいて、楽しかったです。

けれども一年たった時両親の都合で「くれ」へ行くことになったのです。引越すと聞き手紙を書く時、友達と私は字をキレイにして、手紙を書くことと思いついたそうです。

そして、二人は、ちがう場所だけど習字を習いました。習っているところがききせてきに同じだんたいだったので。

そして、ついに「表しよう台で会う」ことができたのです。

その時からずつとはなれていた友達に、毎年会えるように努力しています。

私とてつぼうと友達

《小学生の部 入選》

五日市小学校五年 福田 麻衣

私が友達に伝えたいことは、私のムリを、デキルに変えてくれた事の感謝の気持ちです。そして、はげましてくれたので、私も何か、はげまさせてという気持ちです。

私が、伝えたいと思った理由は、私がさか上がりができなかった時、こつやフォームを教えてください、
「やつぱりムリ……。」と言ったら、「麻衣ちゃんならできるよ、がんばって。」
とはげまされ、勇気をもらったからです。そして、私に何回もお手本を見せてくれた事です。
頭に血がのぼり、きもち悪いはずなのに、してくれました。それを見て私は、「がんばろう。」
と思いました。何回も落ちこんでは、はげまされ、とてもうれしかったです。できるように
なった時、友達は、「すごいーやつぱりできたー良かったねー」と私より喜んでくれて、とっ
てもうれしかったです。

今後は、てつぼうに行ったら、「ありがとう、おかげでできるようになったよ！」と言いた
いです。そして、その子と仲よくして、何か困ったら、私もはげませられるようになりたい
ので、がんばります。

いつもの風景

《小学生の部 入選》

亀崎小学校五年 小笠原 琉華

「ガラガラガラ」私は教室に一步前進した。「みんないる！」みんなはがやがや。いつもの風景だ！

「おはよう。」

さりげなくあいさつをした。すると・・・

「おっはよう！」

元気で明るい声がひびいた。

みんながいるこの教室でじゅ業がはじまった。

いつもはキレイな算数も楽しく感じる。ふしぎだ。「友達ってすごいな」心の中でそう言った。なつかしいなこの感じ。うれしかった。何よりもうれしかった。

みんながノートを開きこんにちは。私もノートにこんにちは。

「休校中何した？」や「宿題多かったね」とあちらこちらから聞こえる。

そしてチャイムが鳴りひびく。教室は静まりかえった。先生の声がひびく。それに反応して、「はい」や「はいっ」という声が教室にひびいた。

いっぱい話そうね。外でいっぱい遊ぼうね。

私のやるべきこと

《小学生の部 入選》

草津小学校五年 下田 彩羽

私は、このクラスの学級代表に選ばれました。学級代表は、クラスのみんなをひっぱっていくやくわりがあります。そのために、クラスのみんなを、よく見なければなりません。このクラスには、いろいろな人がいます。少し内気な人、とても元気な人、おもしろい人、スポーツがとくいな人、いろいろな人がいました。

そこで、私は、自分のことをふり返ってみました。私には、どんなやくめがあるのか、私は、どんな人なのか、考えてみました。考えてみると、いろいろなことがあります。私は、兄がいるので、男の子の話もよくわかります。そこで、私は、内気な人、話しづらい人を、一人にせず、クラスの「わ」に、すんなり入れるように、良いクラスをつくり、みんなとたくさん話をする、それが私のやく目だ。

自分のやるべきことがわかった私は、良いクラスをつくるために、やるべきことを、どんどんしていききたいです。

今、友達に伝えたいこと

《小学生の部 入選》

牛田新町小学校五年 中村 真央

新型コロナウイルスで学校が休みになり、長い間友達に会えませんでした。

わたしは、ずっと友達が元気がどうか心配でした。それは、ニュースで新型コロナウイルスがお年よりの人たちだけでなく、子供も感せんすることを知ったからです。

いつもはあたり前のように、いっしょにゲームをしたり、公園で遊んだり、勉強をしました。新型コロナウイルスによって、わたしは、一人ぼっちになった気がしてとてもさみしくなりました。家も近くなのに話をしたり会うことができないのです。

そんなわたしをお父さんは見て、

「なんで友達が大切なんだと思う？」

と聞きました。わたしは、すぐに答えることが出来ませんでした。するとお父さんは、

「友達は、大人になつても仲良くしてくれ、おたがいははげまし合ったり、高め合うことが出来るんだよ。」

と教えてくれました。わたしには大切な友達がいるんだなと、うれしい気持ちになりました。これからもずっといっしょにいようね。

今、友だちに伝えたいこと

《小学生の部 入選》

牛田新町小学校五年 竹内 凜

私には幼稚園で一緒だった大切な友達がいまいます。その友達とは、幼稚園だけではなく、よくおたがいの家に遊びに行ったり、キャンプに行ったりしていました。私には、卵アレルギ―があり、時々病院に行つて、負荷試験をうけてつらい思いをすることがあります。その時も応えんメッセ―ジを書いて動画で、はげましてくれます。私にとって大切な友達です。でも、小学生になつて小学校が別々になつて会える機会が少なくなつてしまいました。それに、今年の新型コロナウイルスの影響で、全く会えなくなりました。

私はその友達と約束していることがあります。「中学校は必ず一緒に学校に行けるように勉強をがんばろうね。」私は心の中でこの約束を思い出しながら日々がんばっています。時々お互いのお母さんからどんな様子か聞いたり、テレビ電話をしたりしてはげましています。私が今親友に伝えたいこと。それは、「自由に会えるようになつたら、思いきり遊ぼう！そして、絶対に一緒に中学校に行こう！」

コロナウイルスの好きな所

《小学生の部 入選》

宇品小学校六年 藤井 珠

私はコロナウイルスはきらいです。でも、一つだけ好きな所があります。それは、友達の大切さをより分かせてくれたことです。

五年生の時、私と性格が正反対の元気が良すぎる男の子と隣の席になりました。その子は、先生の話を妨げることがよくあり、私は苦手だな、静かにしてくれればいいのに、と思っていました。でも、先生に、

「家で一人で勉強していたら、そういう考え方もあるのか！って思わないでしょ？でも、学校ではそう思えるの。だから学校に来てるんだよ。いい子だから、話しかけてみて。」

と言われました。確かに、家では他人と交流することがないので驚くことも納得することもできません。そう思うと、その子は私とちがう性格だから分かることがあるのかも！と思いい、話してみました。すると、明るくてとても面白い子でした。

コロナウイルスが流行し、家で勉強していると、先生の言葉がより胸に響いてきます。苦手な人でも、まずは話しかけることで楽しい学校生活を送れるのではないのでしょうか。

ありがとうの輪

《小学生の部 入選》

口田小学校六年 江藤 美玖

私は、今友達に伝えたいことは「ありがとう」です。

私の友達になってくれてありがとう。仲よくしてくれてありがとう。悲しいとき、つらい時いっしょにいてくれてありがとう。ひどいことを言ってしまったても責めずにあやまるのをまっけてくれてありがとう。言葉に表せないほどのありがとうを友達にもらってきました。でも私はその「ありがとう」の一言がはずかしくて言えませんでした。それでも友達はいつもありがとうの言葉を言うきかいをくれました。私は言えなくてずっともじもじしていたら、この長い休校に入ってしまった。そこで、私は言えなくてずっともじもじしていたら、毎日、一言ずつ書いていき登校日になりました。ありがとうをくれた友達に全部言っていきました。そうしたら私に、

「こちらこそありがとう。」

その時私は、ありがとうの輪ってなんかすごいと思いました。その日から私は、ありがとうと自信を持っていえるようになりました。

私の友達

《小学生の部 入選》

八幡東小学校六年 仲崎 希

私は言いたいことを言える勇気のない人間でした。でも友達が私を変えてくれました。「ねえ今日遊べる？」「あ、うん。遊べるよ。」

今日はいままで遊びたい気分じゃないけど遊ぼうと言われたから遊ぼう。いつも自分の気持ち言えずに人まかせにしていました。でも、そんなある日「あの映画おもしろそうじゃない。」「うんうん！めっちゃ見たい！」と話していたとき、「希は？」と友達が聞いてきて、「うん。私も見たいな。」と返したら、「そうなんだ。」と返してきました。その友達と放課後遊んでいるときに、急に「無理して人に合わせなくても、自分の思ったことを言ったら？」と言われてびっくりしました。でもなぜか私は（そうだよな。）と思ってしまうました。

次の日、友達と「梅好き？」という話になって「私はすっぱいから無理かな。」と言う人が多かったけど私は思いきって「私はすきだよ。」と言ったらみんなが「そうなんだ！今度一緒に食べよ。」と言ってくれてうれしかったです。私は友達に（あの言葉のおかげで自信が持てたよ。ありがとう。）と思っています。

ありがとうの花

《小学生の部 入選》

皆美小学校六年 井原 心音

私と同じクラスで今年転校していった友達に、「感謝」したいです。二年生するとき、私のクラスに転校してきた友達は、すごく明るくて、いつもハッピーにしてくれました。しかし、今年、学校がコロナとなり、休業中の間に、転校してしまいました。「今まで言えなかったありがとう」を言いたかったのですが言うことができませんでした。心のなかで

「ありがとう。いままで、これからも。」

と言って、さよならをしました。そして、学校が再開し、先生から、朝の会にその友達から「メッセージがあります。」

と言われ、とてもうれしくなりました。友達のメッセージには、「思い出がたくさんできました。本当にありがとう」という言葉が刻まれていました。心がすごく温かくなって、友達と、心が通じたのかとびっくりしました。私から「ありがとう」と言いたかったのに、友達からも「ありがとう」と言ってもらえて、友達になってよかったなと思いました。そのとき、「ありがとうの花」が咲いたのです！

逆ギレしても良いものは生まれない

《小学生の部 入選》

倉掛小学校六年 加藤 帆乃香

私が今、友達に思っていることは、注意された時に逆ギレしても良いものは、何も生まれないということですよ。

このように考える理由が二つあります。一つ目は、ケンカが起きてしまうということです。注意されたときに、聞き入れていれば平和に終わったことが反抗してしまうことによつて無駄な争いを起こしてしまうのです。

二つ目は、自分が成長できるタイミングをのがしてしまうことです。みなさんは、自分しているつもりはないのに注意されてしまったという経験はありませんか？そのときに「自分はやつてない！」と言つて反抗するか、「どうして言われてしまったのか」と考えるかで成長できる度合いは大きく違ふと思います。やつたつもりはなくても、注意されるといふことは、何か原因があるはずですよ。そこを考えて直すようにすれば、今までの自分よりも大きく成長できるはずですよ。

注意されることはみんな苦手だと思います。でも、少しずつでも聞き入れてみてはどうでしょうか。きつと良いことがあると思います。

みんなの「異見」

《小学生の部 入選》

安東小学校六年 中村 紗倅

私はコロナの影響で家にいて、学校っていいなと思った。学校には色々ないいところがあるけど、何より感じたのは話し合うことができること。色々な人が集まり、色々な意見が飛び交う。一人じゃ出来ない事、「話し合うこと」。

家で問題集を解いても勉強はできる。でも話し合う事ができない。

「自分の意見と相手の意見」

同じ答えでも異なるやり方、話し合って答えを見つける。それが一人じゃ出来ない事。一人では「異見」が聞けない。

「自分の意見を言う、相手の意見を聞く」

自分の意見に疑問を持つ人がいて、相手の意見に疑問を持てる私がいる。

六年間、分かったつもりで分からなかった学校の良さ、それは「みんなで学び合える事」授業が再開して休校中ずつと満たされなかった何かを満たされた気分だった。

これからは、当たり前前に授業が受けられるありがたさと、学校に行ける喜びを感じながら、小学校生活最後の一年間を過すそうと思った。

大切な時間

《小学生の部 入選》

久地南小学校六年 稲垣 遼祐

ぼくたち家族は、一月二十一日まで、中国の浙江省に住んでいました。中国が春節という長い休みに入ったので、日本に帰国することにしました。そして三月三日には中国に戻る予定でした。しかし、新型コロナウイルスのえいきょうで日本から出られなくなってしまうたのです。友達の中には、そのまま本帰国になってしまった人もいます。突然のことだったのでお別れも言えず、もう会えなくなってしまうました。ぼくはそれがとても悲しかったです。

ぼくは、新しく日本の小学校に通うことになりました。新しい友達ができ、話したり、笑ったりすることで、暗かった気持ち明るくなったことに気付きました。そこで、ぼくはあらためて友達という存在の大きさを知りました。

ぼくはもう友達に会えないという経験をしました。その経験を活かし、ぼくが今、友達に伝えたいことがあります。それは、友達と過ごすなげない時間を大切にしようということです。